

転覆海難に注意！

今年度に入り、荒天下における転覆海難で、2名の死亡者が発生しています。転覆状況等を目撃した者がおらず、船長及び乗組員が死亡しているため転覆原因は不明ですが、当時、白波が立ち海上模様が悪かったことから、横波等を受けて転覆したものと推測されます。



写真は本件海難のものではありません。

【転覆海難防止のポイント】

小型船舶の転覆事故は、「**沿岸、横波、バランス**」と3つの要素が絡んで発生しているのが特徴的です。

・磯波に注意

沖合いで波が低くても、水深が浅い沿岸は、波が急に立ち上がります。水深の浅い沿岸では、常に波の方向に注意し横波を受けない様に警戒しましょう。

・横波・積荷に注意

日本小型船舶検査機構の「小型船舶の耐航性に関する調査研究報告書」(平成元年3月)によると「船型に関係なく高い重心や積荷の偏りなどで、

船の幅と同じ程度の波高の波を1～2波連続して横から受けることにより瞬時に転覆するとの結果があります。

積荷は、偏りが無いようにバランスよく積み、ずれないように固縛しましょう。

・最新気象予報等の入手

海の安全情報(MICS)等を利用して最新の気象情報を入手し、荒天が予想される時は、出港の取り止め、又は早めの帰港を心掛けましょう。

ライフジャケットは常時着用！

転覆海難には、海中転落が付きものです。

万が一転覆してしまった時のために、ライフジャケットは常時正しく着用してください。

また、膨張式ライフジャケットは、ボンベ、スプールの定期交換など、点検・メンテナンスをしっかりと行いましょう。



お問い合わせは **第一管区海上保安本部交通部**

電話 0134-27-0118 (内線2643,2644)、FAX 0134-27-6193

海の安全情報ホームページ <http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/mics/>



海難隻数及び海難による死者・
行方不明者数(速報値)

5月	13隻、0人
平成28年累計	45隻、2人